

員会で生家、記念館を管理しています。これらの組織は独自で活動していますが、これからは連携を強め、ともに市内外の観光客の利便を図るべきだと思います。

第二に、市外からの観光客に対し、市民一人ひとりが間宮林蔵に愛情をもつて語れる状況をつくっておくことです。この市に住んでいながら、間宮林蔵については「教科書に出てきた」くらいの印象しかないと思います。

間宮林蔵についてもっとよく知り、誰もが「間宮林蔵が好き」という市民意識をつくり出すべきだと思います。いかがでしょうか。

【市長答弁】
つくばみらい市は、偉人・間宮林蔵が生まれた地であるということが、市の観光に活かされていない、とのご指摘をいただきました。

市では、間宮林蔵記念館や生家を掲載した「つくばみらい市観光ガイドマップ」を作成し、事あるごとに周知を図っています。

昨年度は、市内で行われた「福岡堰さくらまつり」、「商工祭」など、また、市外においても上野駅構内での「いばらき産直市」などで、林蔵太鼓保存会の皆さまに林蔵太鼓を披露していただき、市のPRと一緒に間宮林蔵

についての周知をしてきました。

しかし、高橋議員からのご意見により、まだまだ、PRが足りないと感じたところです。より一層PR活動を推進し、今度、高橋議員とお会いしたときには、「誰でも知っている間宮林蔵」と言っていたただけるようにしたいと考えています。

【教育長答弁】

間宮林蔵記念館は、平成5年の旧伊奈町時代に整備・開館し、昭和30年に県の史跡として指定を受けた「間宮林蔵の生家」とともに一般の方々に公開され、今年で18年目を迎えました。開館以来、毎年、市内外から多くのお客様が来館し、貴重な関係資料などをご覧いただき、間宮林蔵の業績を紹介しています。

平成22年度は、1年間で6713人の方においでいただきました。内訳は、市内938人、市外5775人です。この内、県外の方は2383人です。

また、平成21年7月26日には、「間宮海峡発見200年」を記念して祭典を実施しました。この祭典は「間宮林蔵顕彰会」や「林蔵太鼓保存会」、さらには小・中学校の児童生徒の皆さん、地元の方々に協力をお願いしながら、地域の歴史文化の伝承と市民協働による地域振興を目的に開催

しました。

ご質問、1点目の施設の管理、組織の一体化については、現在、記念館でビデオの放映をしております、その中に「間宮林蔵顕彰会」や「林蔵太鼓」の活動を入れるなどさらに連携を深めていきたいと思っています。

2点目については、「間宮林蔵顕彰会」の事務局の支援だけで

地域交流の活性化について



やまもと しゅんぺい
山本 駿平
議員 3年
(伊奈中)

るので、有効利用が子どもたちに伝統を継いでもらえば将来性があると思います。

以上のことをふまえ、市の活性化を図るための対策が必要だと感じます。

【市長答弁】

山本議員が言われたとおり、地域交流の活性化、また、子どもたちの活気あふれるまちを作るには、イベントの開催は、大変重要であると考えます。

現在、市では、地域に住む専門的かつ高度な技術を持った方々と、新しくつくばみらい市にいられた方を含む市民の皆さんとの交流の場を作るイベント、また、子どもたちが楽しく参加できるイベントなどを、一年を通して実施しています。6月に実施した「子どもまつ

り」、8月に行う「みらいフェスタ」、11月には「文化祭」などたくさんイベントがあります。

【教育長答弁】

現在、市で実施しているイベントのいくつかを少し詳しくお話しします。

まず初めに『子どもまつり』を紹介いたします。きらくやまを会場に、ボランティア団体の協力を得て、ベーゴマなどの昔遊びを教えていただいています。また、ボイスカウトの方々には、竹とんぼづくりなど竹細工の指導をしていただいています。今年6月4日に開催し、関係者を含め、約3500人の方が来場されました。

次に『たこあげ大会』を紹介いたします。例年1月末の日曜日に、総合運動公園多目的広場を会場に開催しています。たこあげ大会は、手作りのたこで参加し、たこの骨組みや揚がり具合などで審査するものです。

たこあげ大会は、産業政策課の主催事業ですが、参加者を増やすため、今年度は、生涯学習課と共催で、子ども向けのたこづくり教室講座を開催し、そこで手作りしたたこで、たこあげ大会を実施したいと考えています。

さらに、市の文化祭ですが、毎年、発表や展示などあわせて、約90もの団体の方や、多くの個